

TERASU

# とうほく照

## 2号

2023  
夏



特集1 東北教区教化テーマ決定

特集2 慶讃法要に参加して

東北教区エリア紹介

宮城・名取川

## 教区改編にて見えてきた課題について

教区教化副本部長  
ふじもり かつひこ  
藤森 勝彦

東北地方の課題を考えると様々なことが思い浮かぶ。人口減少や過疎・高齢化。生活基盤となる第一次産業の衰退。そして、東日本大震災や原発事故による被災からの復興、など。こうした状況が寺院運営や教化活動に様々な形で影響を与えている現実がある。ただ、これらの問題は、必ずしも改編の動きと連動してはおらず、以前から抱えてきた課題でもある。それに対し、「教区改編に伴って見えてきた課題」を考えると、改編に伴うものかどうかの線引きが難しいが、二つの問題が見えてくる。①広範囲となった教区に対応できる教化体制の構築。②改編に伴う予算の変化への対応、である。

①については、宗門が掲げる「組を基軸とする教化事業の展開」との教化目標を念頭に組教化部門を作り、この課題に対応しようとしている。ただ、現状では、組教化部門で議論している「組間共同事業」や「他の委員会各部門と連携する様々なサポート」などは、情報収集・課題整理と検討の段階にあり、本格的な取り組みは次年度からとなるであろう。さらに、教化事業全体ですすむオンラインの活用も、試行錯誤しながら充実を計らざるを得ない状況にある。

②については、教区事務通信冒頭の「東北教

区の財務について」の項目で示されていた通りである。即ち(i)改編後、四年目からの教化助成の減額。(ii)従来の教区費の割当方法が宗務改革次第で見直されること。(iii)旧教区で拠出した繰越金の同額の確保の困難さ、である。

このような流動的な状況の中で、改編で見えてきた課題を論ずることに意味があるかはわからない。ただ、私たちは今、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年の慶讃法要の節目に当たり、未来の宗門の形が方向づけられていく大きな分岐点に立っているのだから、黙って手をこまねいているわけにはいかないだろう。むしろ、限りある時間をいかに活用し、実を挙げるための教化体制をきちんと構築できるか。教区のみならず宗門のあり方を開くための重要な時間と考える。

まずは初年度に計画実施された事業を、先の①②の課題に照らして点検しつつ、課題を共有し、議論を深め、創意工夫を重ねることが必要であろう。そのために、一人一人が人任せにせず発言し、発信し、行動することが願われる。見通しが不透明な状況だからこそ、原点に返り「寄合談合」を大切にし、「ものを言う」ことが尊重される場を開く。課題は結局私達の姿勢に帰ってくるのかもしれない。

『とうほく照』第2号をお届けいたします。昨秋発行した創刊号は8ページでの発行でしたので、今号が実質的な初号となります。

編集委員6人は全員旧教区でも教報の編集委員をしていましたが、当然のことながらそれぞれの教区で編集方針もページ数も発行回数も異なっていたため、何度も会議を重ねて意思疎通を図りながらの発行となりました。さらに各エリアスタッフを含め、合計15名が何らかの形でこの教報に関わっています。

同じ東北とはいえ、文化も歴史も気候も違う立場の人間が集まれば、価値観の相違から意見の衝突も少なからずあります。でもその衝突もまた、新しいことを知り、生み出すのに必要なプロセスなのではないかと思います。

今後『とうほく照』がどのように育っていくのか。私たちと共に皆さまも楽しみにしていただければ幸いです。(大谷)

編集後記

東北教区報  
とうほく照—TERASU— 2号  
発行日：2023年6月30日

発行所：真宗大谷派東北教務所  
仙台市宮城野区小田原1-2-16  
Tel: 022-297-2824 Fax: 022-297-2827  
E-mail: tohoku@higashihonganji.or.jp (東北教務所)  
info@tohokukyoku.jp (広報部門)  
発行人：中根慶滋 編集：東北教区広報部門

<http://www.touhokukyouku.jp>



## 共に悩み 共に泣き 共に笑い 共に考える そして「一人」を生き抜く



5/18 教区同朋会議で採用記念の表彰を受ける正法寺の門徒さんと住職



清谷真澄教化本部長

東北教区教化テーマとして「共に悩み共に泣き共に笑い共に考える  
そして「一人」を生き抜く」が発表されました。

これから新教区において様々な教化活動を展開していく中で、  
教化テーマがどのような役割を果たしていくのでしょうか。

今回「共に」や「一人を生き抜く」という言葉が織り込まれたテーマが  
選出された理由や、決められた願いについて、教化本部長として

選考に関わった清谷真澄氏と、起案された正法寺同朋の会  
「どうぼう倶楽部」を代表して、住職の小原勇哲氏にお話を伺いました。

### 応募された過程は？

小原 テーマが公募されたので、お寺  
の同朋会で出したいという話をし、考  
えてもらえればと何人かに声をかけて  
いました。そのなかで出てきた言葉を  
議題にして決めました。最初に私たち  
の寺の「事業テーマがいいよね」って声  
があがったんです。「こういう感じで  
共に生きたいっていうのいいな」と  
言われたので、共に生きるとは何かと  
いうことを考える中で、いままでも同朋  
の会の中で出た話や自分の先生との  
思い出から浮かんだ言葉です。

### 「共に」「一人」「悩み」という 言葉について思いは？

小原 「共に生きたい」というのが私  
たちの寺のテーマで、「共に悩み身と  
なりうるか」という藤元正樹先生の講  
録の言葉が背景にあり、本当の意味で  
「共に生きる」とはどういうことか考  
えていました。「生きてるってなあに」  
という絵本があって、そこに「生きて  
るって笑うの」「生きてるって泣くの」  
とか、純粋なそういう言葉がヒント  
だったり、いろいろなものが混ざって  
います。

### 「一人」という言葉を含めた理 由は？

小原 この「一人を生き抜く」という  
のは、これを入れることで難しくなる  
からじゃないんじゃないか、そういう  
声もありました。ただ、やっぱり大事  
な言葉だと思って入れたんです。私  
自身、ものすごいどん底に落ち、もう  
どうしようもなく、本当に生きていけ  
ないという状況に陥ったことがあります。  
した。そのとき私は尊敬する先生の  
前で泣きました。何も言わずにずっと私  
のそばにいてくださる先生からは、「そ  
の悲しみは、あなたにしかわからない  
けれど、あなたが背負って生きていか

なければならぬよ」って言われてる  
ような気がして。でも突き放すでもな  
く、その時間を一緒にいてくださる先  
生のお姿を見て、なんか親鸞さんてそ  
んな人だったのかなと思いました。  
「悩み、悲しみ、泣いて、笑って」人そ  
れぞれなら、そこに「共に」ということ  
は成り立たない。本来なら成り立たな  
い中でも、お互いが「一人」を同じく生  
きる存在として共に生き抜いていき  
たい。そんな大事な言葉です。

——今回決まった教区テーマは、  
今後どのように使われていくもの  
なのでしょう？

清谷 どういうふうにもこの言葉を教

### 教化テーマを見て一言

- 「共に」から「一人を生き抜く」  
ここをどう進んでいくのが難しい  
ことだと思った。「共に」が「一人」と  
いうことに繋っていくのか？
- 「共に」という語は、よく聞くようにな  
った。問いかけられていないと意識す  
ることを忘れてはいけないと思う。
- 「共に」「一人を生き抜く」が対比となっ  
ており、「？」となるかもしれないが、  
「？」として残るいいテーマだと思う。
- テーマは問いをいただく大事なきつ  
かけである。

## 教化テーマQ & A

### なぜ教区テーマが必要なの？

3つの教区が一つになって、東北教区とし  
てこれから教化活動に取り組んでいくとき、  
一緒に大事にしていく言葉をまず教区の  
みんなで考えようということなんだ。

### 教化テーマって どうやって決まったの？

策定委員会を編成して、教区の人みんなに  
公募して、27件の応募があったんだ。そ  
のなかから、委員のみんなが、一つひとつ  
言葉に込められた願いを確かめて決めた  
んだよ。

### 教化テーマってどのように 受け取ってもらいたいの？

まず、言葉そのものに響いてほしいな。生  
活の中で「共に悩み、共に泣き、共に笑う」  
ような生き方をしているかなと。それが  
(テーマを通して議論をしていく)出発点  
だし、到達点でもあると思うんだ。

### 「共に」なのに「一人」？

そもそも「私」の存在自体が、誰かと「共  
に」在ることなんじゃないかな。だ  
けど、お経では、人は自分で背負って  
いかなければいけないことがあるよ、って  
言われてるような気がして、考えてくれ  
た人は、この言葉を入れてくれたんだ。

### 教区テーマって私たちと どうつながるの？

まず、この言葉とどう向き合って、どう受  
け止めてくれるのか、ということかな。「共  
に」なんてできるのかって思うことがあ  
るのなら、それがまた新たな問いとなると  
思う。このテーマを目にした人、聞いた人、  
一人ひとりの問いとなってくれることを  
願っているよ。

教化テーマをご覧になって  
あなたの声をお寄せください。



さらに詳しく読みたい方はWeb版をどうぞ！  
<http://www.touhokukyoku.jp/theme2023/interview.html>





# 慶讃法要に参加して

三月二十五日から四月二十九日まで、真宗本廟において「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が厳修されました。それぞれのお立場で法要に参加された方に感想をお聞きました。



門徒感話 鈴木徹さん

御法話 白木澤琴さん

新門による帰敬式「剃刀の儀」

## 法話・出仕の機会をいただいて



仙台組 玉蓮寺坊守 白木澤琴 しらさわ こと

父が生きていたら、どんな言葉をかけてくれただろう。かつて私が初めて法務に携わった日には「ご門徒さんは家族だぞ。ご門徒さん方から教えていただいたいな」。そう言ってくれた優しい父だった。

遡ること六年前。私は「慶讃法要基本計画に関する委員会」の一人として携わった。そのご縁で、今回の慶讃法要の場において阿弥陀堂法話、晨朝法話、出仕の御案内をいただいた。三月二十五日〜二十七日、二泊三日の上山の旅。幼い子どもを残していくには不安もあったが、家族が背中を押してくれたのだった。

法話は、「南無阿弥陀仏」と「聞法」の大切さを柱に、念仏申す生き方を教えてくれた太田祖電氏と亡き父二人のことをお話しさせていただいた。出仕もまた人生初めて。慣れない作法に戸惑いながらも、必死に御影堂余間からの光景を目に焼き付けた。

父が生きていたら。ずっと心に抱えて臨んだ今回の上山。晨朝法話の後、教導として来られていた木ノ下秀俊氏が声をかけてくださった。「思い出しちゃうね。お父さんが見えたよ。泣いて顔をクシャクシャにして鼻水を流しながら喜んでいたら」と。その一言がどれだけ嬉しかったか。緊張の糸が解れ、私も同じように涙した。全ての仕事が終わって、やっと、東本願寺境内の満開の桜が目飛び込んできた。奇しくも、父の七回忌にあたる年、生涯忘れられない三日間となった。これで終わりではなく、ここから。南無阿弥陀仏。

## 慶讃法要に思いをはせて



青森県第三組 願榮寺門徒 佐藤直和 さと なおかず

妻との結婚を機にお寺とご縁をいただき、今から三十六年前、本願奉仕団の一人として初めて本山に参拝しました。その時の驚きと感激は、私の人生にとってお寺でお念仏の教えを聴聞し身を寄せる第一歩となりました。そして此度、二人で本山参拝の願いが叶って宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年の記念すべき慶讃法要に参拝するご縁をいただき、併せて帰敬式を受式することができました。今回、阿弥陀堂と御影堂が一体となって同時に勤まる初めての法要が厳修されました。慌ただししい世間の波から離れた張り詰めた空気の中、全国から訪れた真宗門徒が一堂に会し、ただひたすらにお念仏する姿に宗祖親鸞聖人の教えと願いが、今日まで脈々と相続されてきたことを改めて感じました。感動と興奮さめやらぬ中、阿弥陀堂から御影堂へと場所を移し帰敬式に臨みました。「南無阿弥陀仏」を称えつつ宗祖親鸞聖人御真影の御前にて剃刀の儀が始まり、私の頭に剃刀がそっと触れたときは、受式できた喜びを身体一杯に感じる事ができました。真宗門徒としての新しい一歩を踏み出しました。これからは自己研鑽に努め、日々の生活の中から聞法の歩みを重ねたいと思います。団体参拝にご一緒された願榮寺住職、坊守様、そして参加された皆様、大変お世話になり感謝申し上げます。

## 坊守会連盟慶讃法要記念大会に参加して



山形第四組 願行寺坊守 菅生鈴 す しょう

四月十一日午後、全国より約八百名の坊守が御影堂に集いました。東北教区からは二十六名が参加しました。大会では、『苦難の中で輝く「信」——親鸞聖人と恵信尼さまのお手紙を通して——』の講題で、本願寺派僧侶であり武蔵野大学名誉教授の山崎龍明先生のご講義をいただきました。

親鸞の妻、恵信尼が娘にあてたお手紙、いわゆる恵信尼文書が発見され公開されて百年とのこと。今日さらに研究が進み、様々なことが明らかにされてきたそうです。御遠忌など大法要を契機として、時代の中で表現されてきた親鸞夫婦・家族像があり、折々にその夫婦像が寺を担うものの道標ともなったことがわかりました。山崎先生は史実として不確定なところについては断定することなく、複数の説を示してくださる内容でした。

始まる前に、御影堂門前に停まったバスから次々と間衣姿の坊守さんが降りたち、堂内では四割は間衣輪袈裟のように見えました。僧侶の諸先輩が「たんぱち」と懐かしそうに呼ばれていた「御誕生八百年」から五十年。それからの大谷派の女性史をみると、女性住職の誕生、男女の得度の年齢差の撤廃、葬儀式和讃の統一、大きく変化があった五十年であることが感じられます。「家の宗教から個の自覚の宗教へ」は同朋会運動のスローガンですが、今改めて、自分の選びを問いかけられた参拝でした。

## 感話を終えて



山形第七組 念通寺門徒 鈴木徹 す とき

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要における門徒感話をさせていただきますので、感じたこと等をご報告させていただきます。

四月二十三日は日曜日で朝早くから団体参拝の方々と賑わっておりました。山形第七組の団体参拝はないと聞いておりましたので、残念な思いでした。御影堂の白洲には二回の結願の日に演じられる舞楽の舞台が組み立てられており、巨大な太鼓が置かれ、人々は驚いておりました。また、慶讃法要の勤行や法話が、阿弥陀堂と御影堂での同時進行で初めて行われました。私は阿弥陀堂で十一時から五分間感話をさせていただきます。

亡き前住職さんから私への課題は、判断基準としての「ものさし」と「差別」でした。この課題は自分自身を問い直すことであり、生まれてきた意味も考える「問い」だと聞法するきっかけとなったことなど、また、よき人と同朋に恵まれ聞法できたこと、恵まれて生を受けたことへの感謝も感話とさせていただきます。

阿弥陀堂の御内陣は金箔のまばゆさもありません。緊張でした。五百名ほどの参拝者が話を熱心に聞いてくださいました。ありがたいことでした。前日は京都国立博物館で開催中の親鸞展を鑑賞しました。国宝十一点のほか総数一八一点の展示で圧巻でした。充実した二日間となりました。合掌。





# 奥羽エリア

奥羽エリアは、青森県・秋田県をその地域とし、組は七カ組、お寺の数は百六十二カ寺（奥羽大谷会館含まず）です。地域の名物・主要な事業などを織り交ぜて、各組の紹介をしてまいります。



■青森県第一組  
深浦町、鰺ヶ沢町、つがる市、五所川原市などからなる組で、寺院数は十七カ寺。組の推進員連絡協議会の活動が盛んで年に数回、研修会が行われています。津軽半島にある十三湖は日本有数のシジミの産地。

■青森県第二組  
青森市、弘前市、黒石市などからなる組で、寺院数は二十七カ寺。地区ごとの門徒研修会が盛んで、青森市・弘前市の各地区で行われる推進員研修会はほぼ毎月行われています。青森市で毎年八月二日、七日に開催される青森ねぶた祭り。

■青森県第三組  
八戸市、十和田市、むつ市などからなる組で、寺院数は十二カ寺。全戦没者追弔法要と非戦平和の集いを開催しています。津軽海峡で水揚げされるマグロは天然本マグロで、黒いダイヤとも呼ばれています。

■秋田県北組  
能代市、大館市、鹿角市などからなる組で、寺院数は十五カ寺。奥羽教務支所が能代市にあります。「やさしい仏教のお話」という講座を

年八回開催しています。きりたんぼ鍋は、大館・鹿角地方が発祥とされる秋田県を代表する郷土料理。

■秋田県中央組  
秋田市北部、男鹿市、五城目町からなる組で、寺院数は十三カ寺。分かりやすいお話をコンセプトに「仏教入門講座」を開催しています。なまはげは、神の使い（来訪神）とされ、大晦日の晩に男鹿半島周辺で行われます。

■秋田県西組  
秋田市、由利本荘市などからなる組で、寺院数は三十六カ寺。「親鸞に聞く集い」が年に数回開催されています。秋田市で毎年八月三日、六日に開催される秋田竿燈まつり。

■秋田県南組  
大仙市、横手市、湯沢市、美郷町などからなる組で、寺院数は四十二カ寺。カルト問題についての研修会が開催されています。大曲の全国花火競技大会は毎年八月に行われ、日本三大花火大会の一つ。GO!門徒商店街で特集した小松煙火工業さんも大曲にありま

## GO! 門徒商店街

門徒さんが営む商店などを紹介するコーナーです。今回は秋田県南組賢徳寺門徒、小松忠信さんが営む「株式会社小松煙火工業」を紹介します。



社員のみなさん

小松煙火工業は一八八五年、仙北郡宮林新田村（旧大曲市内小友）に煙火製造業として創業しました。秋田県南は、藩政時代に優れた鉄砲隊を持つ佐竹藩が常陸から国替えをさせられた地です。この地域は花火業者が集中しており、火薬の扱いに慣れている人が多い土地柄で、大曲の花火発祥と関わりがあるとされています（※諸説あり）。百年を超える歴史を積み重ねている大曲の花火・全国花火競技大会をはじめ、数多くの花火打ち揚げ機会があり、神社の奉納花火はもちろん、入学式や卒業式でも花火が打ち揚げられるほど、花火文化が定着しています。

今まで花火に関わってきたことと、嬉しかったことをたずねると、「お客様の喜ぶ顔を見た瞬間は、これ以上ない達成感があります。私自身、学生時代在海外で自社の花火が打ち揚がる場面において、外国人の方が拍手しながら喜んでる姿を見た時に、家業を継ぐことを決めました。会場に足を運んで来ていただいた方には、とにかく喜んでもらいたい。その一心で日々取り組んでいます」と答えてくれました。小松さんのパワーの源は、私たちの「喜ぶ顔」なのですね。次に、花火を作るうえで大切にしていることをうかがいました。「安全第一。これに始まりこれに終わると言っても過言ではありません。新たな感動は、安全性なしには生まれません。また、常に創作意欲を失わず、探求心を持ちながら業界に先駆けて新たな作品を生み出すよう取り組んでいます。安全性を大切に、常に新しく、人に感動を与える作品を作りたいという熱意がある。素敵な花火を生み出しているのですね。最後に、今後の展望をお聞きしました。「大仙市は、花火を核にした街づくりを標榜し、官民一体となって花火の産業化に取り組んでいます。私たちもその一役を担うべく、花火の技術レベルを磨くと同時に、『花火の街』の魅力発信に努めてまいります。皆さんもぜひ、小松さんの花火を観に来てください。きっと笑顔が溢れることでしょう。」

製造工程



①配合



②玉貼



③乾燥



④玉貼



高崎 HANABI コンクール優勝作品「氷華～アイスクリスタル～」

株式会社小松煙火工業  
【本社】秋田県大仙市内小友字宮林六  
【工場】秋田県大仙市内小友字  
中田宮東三四五  
☎〇一八七-六八一-二六二五





# 山形エリア

山形エリアは、山形県をその地域とし、  
組は十カ組、お寺の数は百四十二カ寺（山形教会含まず）です。



■山形第一組  
山形市中心部にあり、十五カ寺で構成され、通称「寺町」と呼ばれています。近頃の七日町通りでは八月五日から七日まで「花笠まつり」が開催されます。

■山形第二組  
山形市中心部を囲うように山辺町、山形市、上山市にまたがり、十五カ寺で構成されています。上山の丹野こんにやくが有名で蔵王温泉、スキー場があります。

■山形第三組  
十五カ寺で構成され、上杉謙信ゆかりの上杉神社、米沢牛、赤湯ラーメン・高島ワインなどが有名です。

■山形第四組  
当番制で十五カ寺を会場に二年に一度、五月一日に「大会合」という聞法大会を開催しています。どなたでも聴講できます。（寺院数は二十二カ寺）

■山形第五組  
十四カ寺で構成され、毎年一回、どなたでも参加いただける組同朋大会を開催しています。申し込み不要・参加費無料。

■山形第六組  
七カ寺で構成され、八月第四金曜（日曜日）に「むらやま徳内まつり」が行われ、基点温泉やそば街道があります。

■山形第七組  
花笠音頭発祥の地。夏スイカ出荷量日本一、尾花沢牛・銀山温泉など有名な地域で、十二カ寺で構成されています。

■山形第八組  
七カ寺で構成され、毎年七月、善正寺を会場にどなたでも聴講いただける公開講座を開催しています。申し込み不要・聴講費五百円。

■山形第九組  
二十カ寺で構成され、年三回どなたでも参加できる聞法会をひらいています。聴講費五百円です。ぜひ、ご参加ください。

■山形第十組  
中心の鶴岡市は酒井藩の城下町として栄え、日本の原風景を残す出羽三山や、クラゲの種類が世界一の加茂水族館もあります。十五カ寺で構成されています。

## YYR「救命救急講習会」開催

YYR会長 新羅 尚史  
【山形第四組 緑陰寺】

当団体は、東日本大震災の影響により、屋外で遊ぶことが困難になった福島の子どものために短期保養企画YYR（山形で、ゆったりゆったり、リラックス・リフレッシュ）として、旧山形教区青少年小委員会主催の教化事業として二〇一二年に始まりました。その後、山形復興支援企画室に管轄が変わっても、実行委員会の皆さんや各組の方々の様々な協力により活動を続けることが出来ました。

震災から十年を経て活動終了の予定でありましたが、これまでの活動の繋がりを残し、また、自坊に戻った寺院や教化活動に興味を持つ門徒子弟の受



AED



講習会の様子

け皿となるように、任意団体「真宗大谷派山形連絡協議会（通称YYR）」を山形教会関連団体として、二〇二二年七月に新たに発足致しました。

発足後初めての研修会として、一月二十七日（金）に山形教会に於いて、「救命救急講習会」を開催致しました。参加者は十八名でした。旧YYRは何のスキルも持たないまま始めたこともあり、救命救急の基礎的な知識を学ぼうと企画し、山形市消防署から四名の方に来てもらい「普通救命講習Ⅰ」の講義とAEDの使い方等の実技を三時間受

## 「大谷スカウト連合協議会」の山形エリアの活動について

東北教区大谷スカウト連絡協議会山形幹事

三森 孝  
【山形第四組 善行寺】

「大谷スカウト連合協議会」（山形エリア）には、ボーイスカウト山形市一団とボーイスカウト天童市一団の二団体があります。

活動としては、「野外活動」としてのキャンプ・ハイキング・サイクリングなど、「奉仕活動」としての駅前の空き缶拾い・公民館やお寺の清掃（その落ち葉での焼き芋会）などの活動を毎月行っています。

学校だけでは学べない体験を通して、生きていく為の技術であったり、共に力を合わせる大切さも自然に身に付けることができ、子どもたちは心

も身体も大きく成長していきます。  
大谷スカウト山形エリアとしての活動は、年一回の「大谷スカウト報恩講・花まつり」を四月に勤修いたしており、本年は四月二日に勤まりました。いのちの尊さを少しでも感じて頂きたい、親鸞聖人の正信偈をみんなで声を合わせて唱和することを大切にしたいとの願いで、毎年活動内容を工夫しながら勤めております。  
寺院やご門徒の子弟のご入団をお待ちしております。



誕生仏を白象に載せて行進



甘茶の灌仏



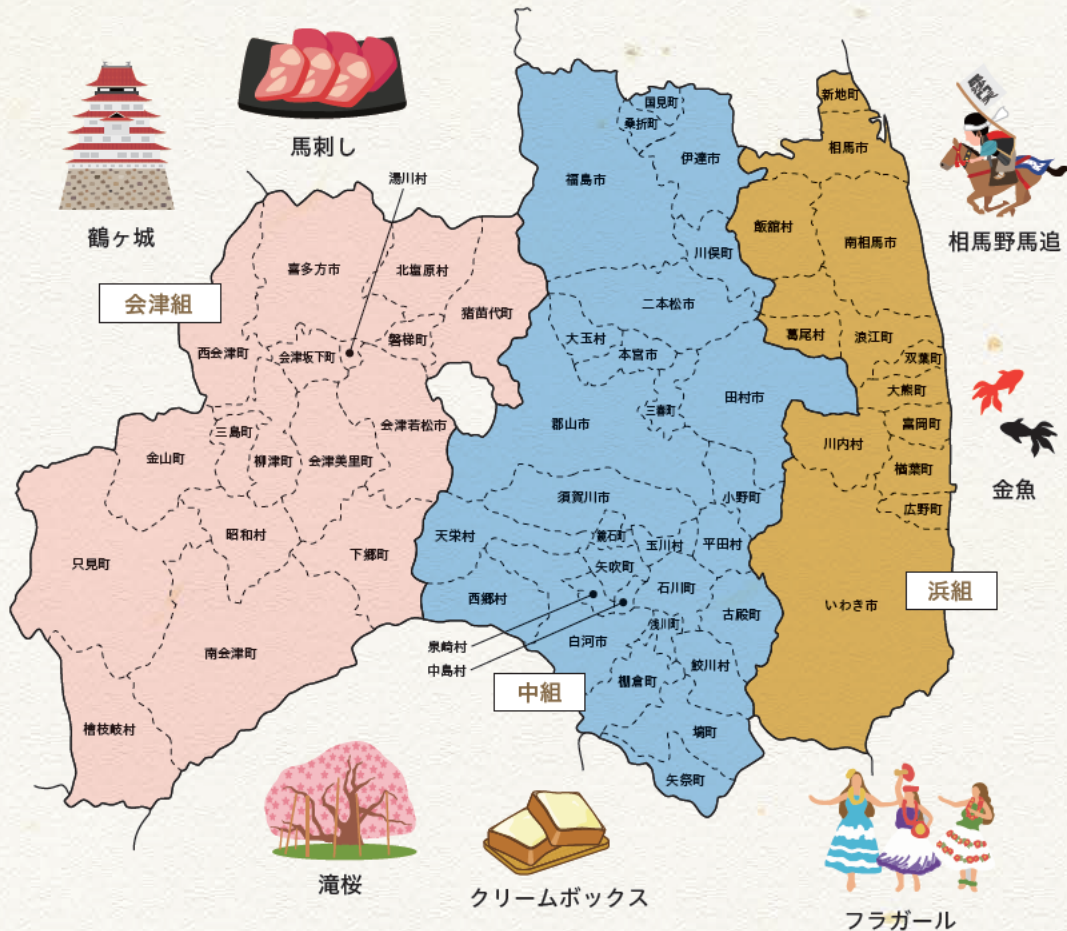


# 仙台エリア

仙台エリアは、岩手県・宮城県・福島県をその地域とし、組は八カ組、お寺の数は百十二カ寺（別院含まず）です。



宮沢賢治



■盛岡組  
岩手県中央部に位置し、冬は寒さが厳しい地域もあります。親鸞聖人の二十四輩の一人、是信房が開基の盛岡本誓寺をはじめ縁のある寺院も多いです。岩手真宗会館を教化拠点とし、様々な講座を開いています。（寺院数は十八カ寺）

■気仙組  
岩手県沿岸南部にある大船渡市、陸前高田市、住田町にある十カ寺による組です。気候は温暖で、冬でもほとんど雪が積もりません。この地域は他宗寺院が多く、仏事にもその影響があります。大正時代に始まった聞法会「大会合」を現在で

も開催し続けています。

■花巻組  
東西に広い組で、西は秋田県と接している西和賀町から、東は遠野市を経て太平洋に面した釜石市まで至ります。南北では、北上川に沿って花巻・北上・奥州市等を含み、遠野物語、宮沢賢治と文学にまつわる話題が豊富な土地でもあります。過疎という地域の課題を感じている中で、次の世代の育成に力を入れて取り組んでいます。単に住職寺院だけでなく、門徒も含めたスタッフ育成と教化が大事な点だと考えています。（寺院数は二十一カ寺）

■仙台組  
仙台市名取川以北と宮城県の北側が全て含まれる、都市部も農村部もある広範囲な組です。組の教化では、寺族・門徒・総代・推進員・広報などに担当が分かれていますが、参加される対象の方の事を考えながら実施にあたるようにしています。（寺院数は二十四カ寺）

■仙南組  
仙南組は寺院が六カ寺あり、仙台の南部から福島県の県境までの広範囲に位置しています。学びを深めるために住職学習会を定期的に

行っています。ご門徒と共に学びを深めたいという願いもあります。

■浜組  
福島県の太平洋沿岸に位置し、「浜通り」とも呼ばれる南北百キロ程の地域に九カ寺と原町別院があります。その中間には、事故を起こした福島第一原発と、帰還困難区域に設定されている市町村があります。原発事故後に避難したまま、現在も帰ることができない寺院と多くのご門徒がおります。

■中組  
福島県中部にある南北に広い地域です。広範囲に寺院が分布しており、寺院数も少ないため交流が疎かになってしまわないよう、報恩講でお互いに出仕して回るなどの取り組みをしています。（寺院数は十四カ寺）

■会津組  
会津組は歴史上、重要拠点である旧会津藩地域で活動しています。戊辰戦争や磐梯山噴火等、苦難の中で御門徒の皆様と共に法灯が受け継がれてきました。住職の年齢と寺院の住所が近いという特徴を活かし、協力し合い事業を展開しています。（寺院数は十カ寺）

さらに詳しく読みたい方はWeb版をどうぞ！

## お知らせ

各エリア各組の教化事業の情報も、今後Webに掲載してまいります  
<http://www.touhokukyoku.jp>



各組の情報提供をお待ちしております。あて先は東北教務所、奥羽教務支所、山形教会の各教化拠点。もしくは広報部門のメールアドレスinfo@touhokukyoku.jpまで

